



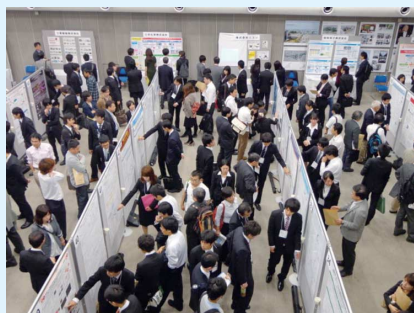
第2回CSJ化学フェスタ学生ポスターセッション 活発な討論に基づく最優秀・優秀ポスター発表者の選出

はじめに

「第2回CSJ化学フェスタ」が延べ1,600人以上の参加を得て、11月14日～17日の4日間、東京工業大学で開催された（本誌2012年12月号958ページ参照）。本企画は「産学官の交流」と「化学の社会への発信」を目的とし、2回目の今回も、最先端研究に関する企画などが賑わいを見せた。第1回から実施している「学生ポスターセッション」では、全国から集まった学生たちが日頃の研究成果を発表した。大変高いレベルの議論が産学官一体となって交わされる活発な企画となった。これらの中から優れた発表に「最優秀ポスター発表賞」及び「優秀ポスター発表賞」を選出した。最優秀ポスター発表賞受賞者の喜びの声を次ページより掲載するので是非ご一読いただきたい。

学生ポスターセッション

会場設営にあたっては、化学系学生と企業との研究交流も可能とするよう工夫した。学生諸君は「学生ポスターセッション」で日頃の研究成果を紹介し、化学企業はその隣の「企業R&D紹介」のブ



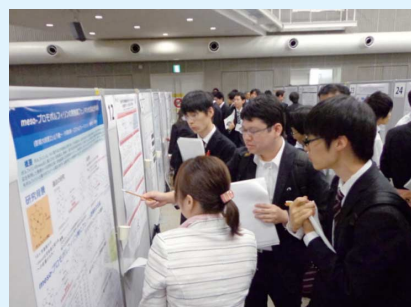
ースで自社技術、自慢の商品、事業などを紹介できるようにした。化学企業の研究者が大学における研究を学生諸君から直接聞く機会は少なく、また化学系の学部・大学院生が企業の研究者から化学企業の技術・商品・事業を直接聞く機会は少ない。多くのポスターやブース前で途切れることなく議論が進行していた。

また、学生ポスターセッションでは昨年に引き続き、日本化学会に所属していない学生の参加を容易にするよう考えた。春季年会等では、発表は日本化学会会員に限られるが、今回のCSJ化学フェスタでは非会員学生も発表でき、さらに参加のみの学生会員は参加無料とした。日本の将来を担う若者に対する化学会の求心力の一助となれば幸いである。

学生ポスター発表

発表募集では、化学とその関連分野を8分野に分類し、特別テーマ「化学で創る未来材料」を加えた9分野で募集したところ、666件の申込みがあった。全体を8セッションに分けて11月15日～17日の3日間、くらまえホールでセッションを実施した。発表時間は一人1時間（ポスター掲示は2時間）とやや短めであったが、非常に活発な議論が展開され、会場は熱気に包まれていた。

今回のポスター発表では、優秀と認められる発表に「最優秀ポスター発表賞」及び「優秀ポスター発表賞」を授与した。その審査基準は、①研究に対して発表者が十分に寄与していること、②質疑応答に優れていること、③独自性が認めら



れ、今後の発展が期待できることの3点であり、企業の研究者を含む多数の審査員によってその評価を行い、厳正な審査の結果「最優秀ポスター発表賞」10件、「優秀ポスター発表賞」122件を選出した。発表賞選出にあたっては、多数の皆様がポスター発表の評価をお願いし、長時間審査していただいたことに対し心よりお礼申し上げます。

おわりに

今回の学生ポスターセッションは、全国の大学から多数の学生諸君が集まり、白熱した議論を交わした。学生を含んだ産学官交流という点で、特徴ある企画として発展しつつあると考える。CSJ化学フェスタ全体やポスターセッションの周知などで、お骨折りいただいた各支部選出の実行委員の先生方はじめ、関係各位に深く感謝したい。今回参加できなかった方には、参加者の感想を聞いていただき、第3回CSJ化学フェスタへの参加を是非ご検討いただきたい。

〔CSJ化学フェスタ実行委員会学生ポスターセッション担当：火原彰秀（東京大学）、伊興田正彦（首都大学東京）〕

—— 最優秀賞ポスター発表賞 受賞者コメント ——

青戸宏樹 (神奈川大学大学院理学研究 科化学専攻 野宮研究室)



このたびは「最優秀ポスター発表賞」という名誉ある賞を賜りまして、大変光栄に存じます。ポスター発表では、多くの方々と議論を交わすことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。特に様々な専門分野の方々からいただいたご指摘やご助言はとても新鮮で、研究者として多くの方と議論をすることが、非常に重要であることをあらためて感じました。

今回の発表は、私にとって大学の学部時代及び大学院における研究の「集大成」と言えるものでした。その発表をこのように評価していただいたことを大変嬉しく思います。

今後、さらに精進を重ね、化学の発展に貢献できるような研究を続けていきたいと思っております。最後に、今回の受賞にあたり、指導教員である野宮健司教授をはじめとする研究室の皆様にご心より感謝いたします。

赤羽真理子 (名古屋大学大学院工学研 究科物質制御工学専攻 浅沼研究室)



CSJ フェスタは、普段の学会とは異なり幅広い分野に携わっている方々と交流ができることを事前に伺っておりました。したがって発表においては、どうしたら他分野の方が聞いてもわかりやすく興味を湧くような発表となるかを考え自分なりに工夫した次第です。その結果、このたびは最優秀ポスター賞という名誉ある賞をいただくことができ大変光栄に存じております。

日々、研究に真摯に取り組むことにより得られた結果だからこそ、熱意をもって伝えることができると思っています。また、他大学の先生方や企業の方々との議論を交わす中で、そのような熱意が伝わり、専門分野外の方であっても研究内容を理解し評価して頂けるような一言をいただけたときには大きな喜びを感じることができます。

今回の CSJ フェスタに参加される皆様にも是非このような体験をしていただき、多くの人にとって CSJ フェスタが今後の研究への励みになる場となることを願います。

石原充裕 (東京工業大学大学院理工学 研究科化学専攻 後藤研究室)



このたび、有機化学の分野における最優秀ポスター賞という名誉ある賞を受賞させていただき、大変光栄に思っております。今回の受賞にあたり、後藤敬教授、佐瀬祥平助教をはじめとするお世話になった多くの方々に感謝いたします。

私は、今回 CSJ 化学フェスタに参加したことで、普段の学会だけでは得られない経験ができたと思っております。産学官の交流をテーマとした企画の1つである企業 R&D セッションでは、様々な企業の研究の舞台裏を含めた研究アクティビティを聴くことができ大変刺激的でした。また、学生ポスター発表では、専門分野以外の方々とも濃厚なディスカッションができた点が特に印象的でした。私のポスター発表は、含硫黄高反応性化学種の一種である *N*-ヒドロキシスルフェンアミドの反応性に関する基礎化学的な研究でありましたが、反応性の応用面に関して多くの指摘をいただくことができました。

今回の化学フェスタに参加される学生の皆様にも、自分の専門とは異なる分野の研究者に向けた発表の場として、さらには産学官の濃厚なディスカッションの場として活用していただきたいと思います。

川畑公輔 (筑波大学大学院数理物質科 学研究科物性・分子工学専攻 後藤研 究室)



このたびは最優秀ポスター賞を賜り、誠に光栄に存じます。これも指導教員の後藤博正先生をはじめ多くの方々からのご指導、ご協力あってのものとして深く感謝すると同時に、私の研究発表を評価して下さった日本化学会の先生方にも感謝いたします。また、研究を進める上で、日本学術振興会から多くのご支援をいただいておりますことをこの場を借りて御礼申し上げます。

さて、今回 CSJ 化学フェスタで発表してみて、異なる分野の方からの斬新な質問やコメントが大変良い刺激となりました。

た。研究室に閉じ籠っていても辿り着けなかったであろう考えや視点を、色々な人と話すことで得ることができるという点で、学会は大変良い機会でした。特にCSJ化学フェスタでは化学の様々な分野から多くの人が集まるため、専門分野での学会とは一味違った議論をさせていただくことができました。

次回発表される学生の皆様も、発表の際、また発表を聞きに行く際は、積極的に専門の異なる人と議論されてみてはいかがでしょうか。



川脇徳久 (東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻 立間研究室)

このたびは、栄えある賞を賜ることになり、大変光栄に存じます。

金属ナノ粒子は、可視光を強く吸収し、粒子近傍に光を留める性質を持つため、光アンテナとして用いることができます。本発表では、金属ナノ粒子同士の距離が色素増感太陽電池の光電流の増強に与える効果を明らかにしており、電池のフレキシブル化・低コスト化・長寿命化に寄与するものです。

私は、第1回CSJ化学フェスタから参加しており、今回2度目の発表となりました。本大会が、前回は大きく上回る活気に溢れた大会となったことは、日本化学界のますますの発展と、産学官の強い連携をあらわしているものだと思います。学生の皆様は、次大会において是非とも研究成果をアピールし、企業や大学関係者の方々と良き交友関係を築かれてはいかがでしょうか。

最後に、ご指導いただきました立間徹教授、坂井伸行助教、高橋幸奈助教、数間恵弥子博士並びに研究を支えて下さった学



生皆様に御礼申し上げます。

中島達哉 (東京工業大学大学院総合理工学研究科化学環境学専攻 山口・田巻研究室)

今回、とても大きな発表会である第2回CSJ化学フェスタにて、このような賞をいただくことができ、大変光栄に思っています。多くのアドバイスや指導をして下さった山口研究室の先生方、関係者の方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本フェスタでは燃料電池に関する発表が少なく、私自身も材料の専門家の方を対象とした発表は今回初めてでしたが、発表を通して多くの意見をいただくと同時に、自分の研究内容について見つめ直す良い機会となりました。私が関わっている研究内容を少しでも多くの方に伝えたいと思い、熱く楽しく発表させていただきました。

今後も、少しでも世の役に立てるような研究を常に意識し、科学の発展に尽くしていきたいと思っております。また、研究者相手だけではなく、科学と距離がある人にも率先して伝えていく努力をしていきたいと思っております。



中谷裕次 (名古屋大学大学院工学研究科物質制御工学専攻 八島研究室)

このたびは、第2回CSJ化学フェスタ2012において最優秀ポスター発表賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思っています。

学生ポスター発表では、多くの先生や企業の方々と広く深いディスカッションができただけでなく、専門の有機化学と離れた分野のポスター発表も聞いたことで、研究の視野を広げるとも価値の在る時間を過ごせました。

研究というのは、とても複雑で難しいことです。しかし、研究を発表する場では、それを相手に正しく理解してもらうことが大切です。特に化学フェスタのような、企業の方々や他分野の先生が多く参加される学会では、難しいことを難しく説明するのではなく、いかに簡単にわかりやすく研究内容とその魅力を伝えるかが、重要なポイントの1つであると思います。そうすれば、他分野の方々とも分け隔てなく研究の面白さ、楽しさを共有できるのではないのでしょうか。



野田寛人 (東京工業大学大学院総合理工学研究科化学環境学専攻 馬場・本倉研究室)

このたびは、最優秀ポスター賞をいただき大変光栄に思っております。今回の受賞は偏に研究室の教員であります馬場俊秀教授、本倉健講師、宮地輝光助教のご指導のお陰であり、心から感謝しております。



研究生生活における学会発表は、自身の研究を様々な方とディスカッションできる非常に有用な場であると考えております。今回の第2回CSJ化学フェスタは、9分野に大別される様々なバックグラウンドを持つ方々が参加されていました。そのことから、普段の研究生生活では聞くことのできない異分野の方からのアドバイスやご意見を多くいただくことができ、大変刺激的であり有意義なものでした。

今回の化学フェスタに参加される学生の皆様も、異分野からの様々なアプローチなどを知り得る良い機会であると思えます。自身の研究に大いに活用していただきたいと思えます。

藤村卓也 (首都大学東京大学院都市環境科学研究科分子応用化学域 高木研究室)

このたびは第2回CSJ化学フェスタにおきまして「最優秀ポスター発表賞」の栄誉を賜り、誠に光栄に存じます。このような身に余る賞をいただき、関係者皆様並びにお世話になった先生方には感謝の念に堪えません。



本会は他分野の方々と議論することができる良い機会であり、自身の発表におきましても多くの先生方、企業の方などと議論させていただきました。お陰で大変有意義な時間を過ごすことができ、自身の研究についてより深く考える良いきっかけとなりました。

今回聴講させていただいた中で、特に興味深かったのが『若手とベテランが無機 vs. 有機 vs. 超分子で考える未来材料』でした。それぞれの分野で活躍されている方が何を考え、何を見据えているのか、そして博士に進んだ自分はいかにどのような課題に挑戦し、社会に貢献していくべきなのかを深く考えさせられ、大変刺激を受けました。普段の学会ではこのようなお話を

をお伺いする機会はあまりないので、貴重な体験をさせていただけたと思います。このCSJ化学フェスタで得たものを大切にし、自身の夢であるエネルギー問題解決に向かい、日々精進して参りたいと思えます。

宮坂彰浩 (大阪大学大学院工学研究科 応用化学専攻 平尾研究室)

今回、栄えある賞をいただき、大変光栄に思っております。私は、「クロスピナコールカップリング反応のための二核金属触媒の開発」をタイトルに発表させていただきました。専門の有機金属化学・有機反応化学だけでなく、様々な分野の先生方や企業の方々とディスカッションの場となり、大変有意義な時間を過ごすことができました。また、企業のR&D企画では、普段聞くことのできない企業の最前線で活躍されている方々の「化学」を聞くことができ大変刺激になりました。次回、化学フェスタに参加される学生の皆様にも、新たな成長や発見の場として楽しんでいただきたいと思えます。



最後に、今回の第2回CSJ化学フェスタへの発表の機会を与えて下さり、これまで研究をご指導いただいた平尾俊一先生はじめ叱咤激励いただいた先生方、一緒に研究を進めてきたメンバーに深く感謝いたします。



© 2013 The Chemical Society of Japan